

事業名称：生物多様性地域戦略事業
調査名：生きもののいっせい調査 2015

目的

沖縄の生き物は実はわからないことがいっぱいあります。沖縄の生き物の今の様子を記録するために小学生を対象としたアンケート調査と一般の方を対象としたフォトコンテストを実施しました。調査を通じて、生き物の分布の基礎的な情報を収集するとともに、身近な生き物に関心を持ち、大切に思う気持ちを育むことを目的とし実施しました。

調査方法

沖縄県内にある小学校 274 校の 4、5、6 年生 47,757 人（2015 年 4 月 1 日時点）を対象として調査票を配布し、家や学校の周り（校区内）で夏休み期間中に見つけた生き物を報告してもらいました。調査対象の生き物は、見つけやすさを考慮し、分布に偏りがあると思われるもの、分布域が拡大あるいは縮小傾向にあると思われる生き物を対象としました。

対象生物：アオカナヘビ類、アオミオカタニシ、ハラビロカマキリ、アフリカマイマイ、オカダンゴムシ、オカヤドカリ類、ハシブトカラス、クビワオオコウモリ



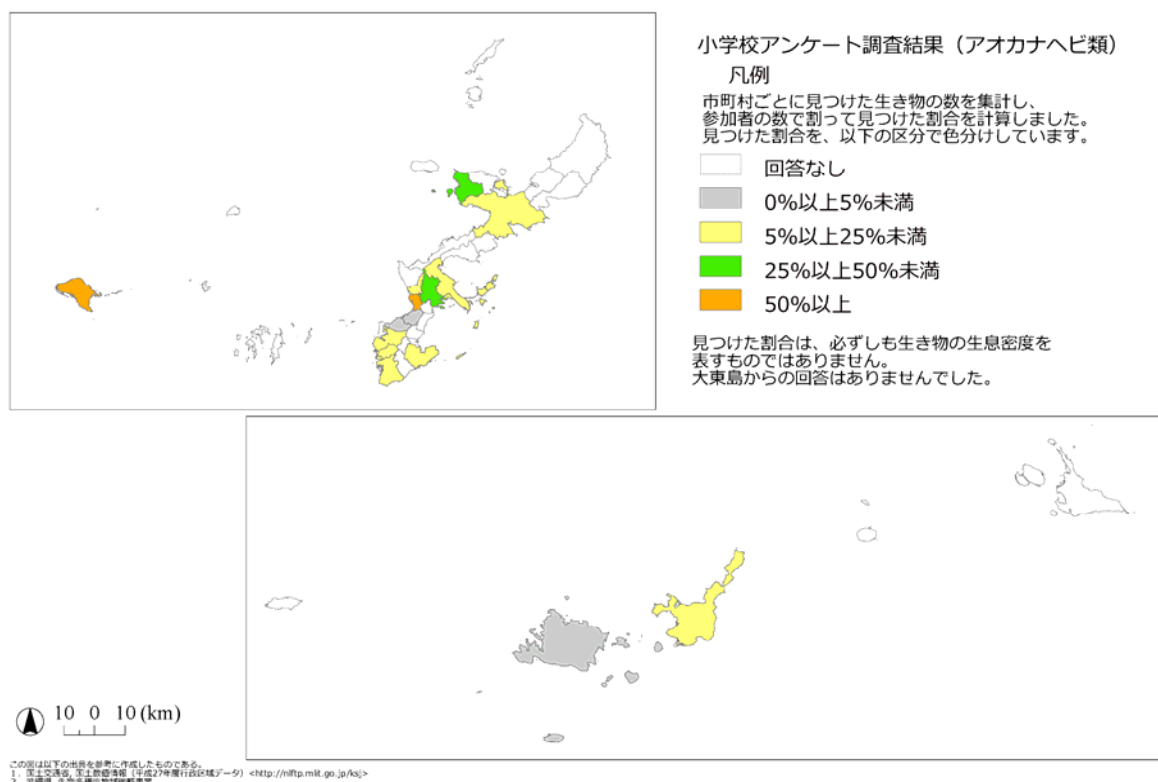
調査結果

回収したアンケートは、回答率が低い小学校もあったため、市町村単位で再集計しました。市町村ごとに見つけた生き物の数を集計し、回答者数で除して見つけた割合（確認率）を GIS (Super map) で整理しました。

【アオカナヘビ類】

全体の確認率は 23.5% でした。北谷町と久米島町で確認率が 50% 以上となっています。北谷町では北谷小学校と北谷第二小学校の協力により、多数のアオカナヘビが確認されました。この他に、沖縄市や本部町などで確認率が 25% 以上となっていました。久米島町での確認率は 50% 以上となっていますが、回答数が少ないため結果の解釈には注意が必要です。

アオカナヘビは昔、沖縄島では家の近くで見つかる身近な生き物でしたが、沖縄島中南部では最近減ってきているといわれています。今回の調査では、アオカナヘビが沖縄の中南部でスポット的に生息する場所が分かり、アオカナヘビ類の分布の把握に利用できる学術的に貴重な情報が得られました。



琉球大学戸田研究室からのコメント

「生きもの いっせい調査」に回答して下さり、ありがとうございました。皆さまのご協力によりカナヘビ類に関して、大変有益な生息状況に関する情報を得ることができました。

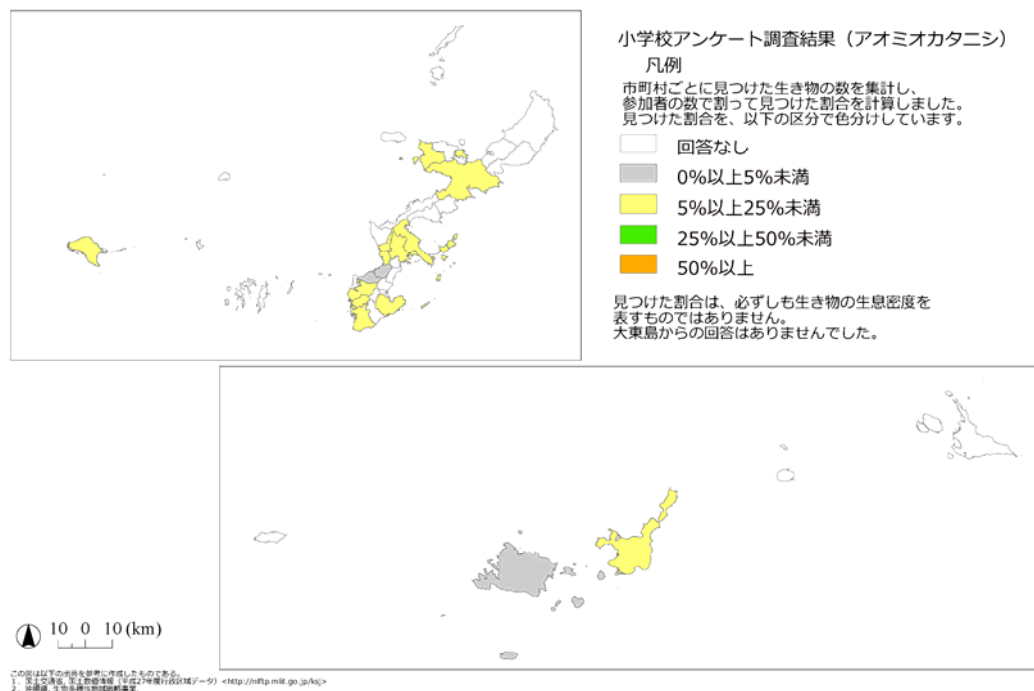
この調査により、カナヘビ類の生息状況についてかなりの情報が得られました。アオカナヘビは

特に沖縄島中南部で激減していて、地域絶滅も懸念されていたのですが、本調査の結果から、沖縄島中南部でもまだ生息している場所があちこちに残っていることが分かりました。同じことは、同時に行われたフォトコンテストの結果からも読み取ることができます。とはいえ、多くの場所で、アオカナヘビの生息地はとても狭く、個体数が非常に少ないことは間違いありません。今回の情報も、多くの人が「いっせい調査」をしたからこそを得られたものです。今後もこの調査を継続し、より精度の高い情報を集めていけば、どんな環境条件がカナヘビ類の生息に必要なのかを分析することができます。そして、その分析結果から、こういう身近な動物を守っていくにはどうしたらよいのかを考える手がかりが掴めると期待しています。

また、今回の調査では、アオカナヘビにたくさんの地域名があることも分かりました。このことから、アオカナヘビが昔から人が生活している環境でもよく観察される、身近な動物であったことがうかがえます。

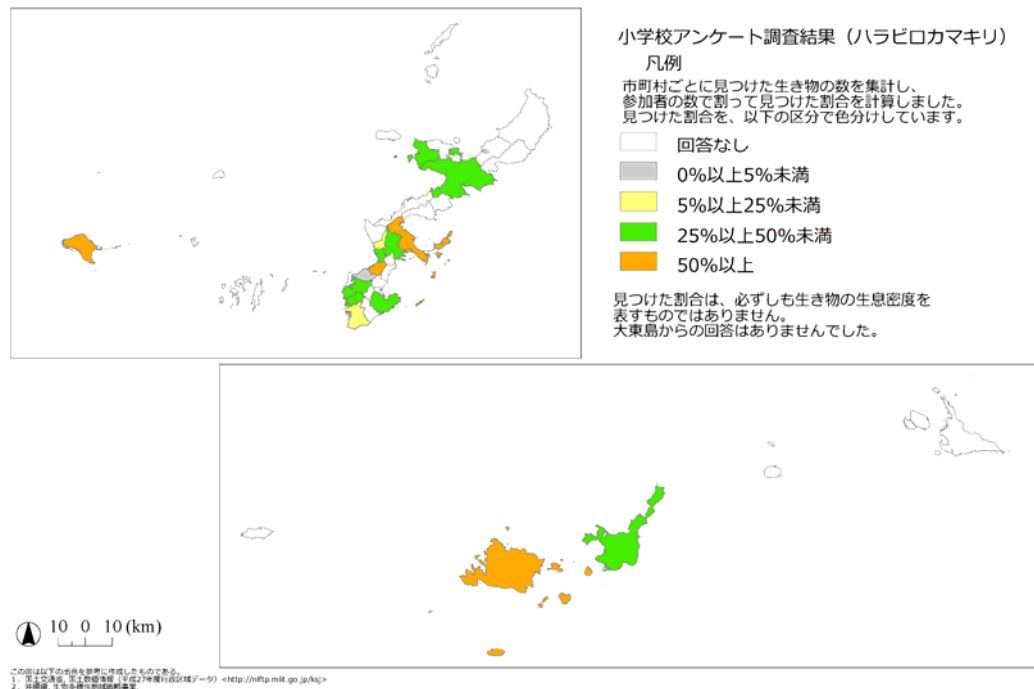
【アオミオカタニシ】

全体の確認率は14.6%で、今回のアンケート調査の生き物の中で確認率が最も低かったです。生息環境の悪化や外来種との競合や捕食などの影響による個体数の減少が懸念されていますが、樹上性の巻貝のため、小学生には見つけにくい生き物だったかもしれません。



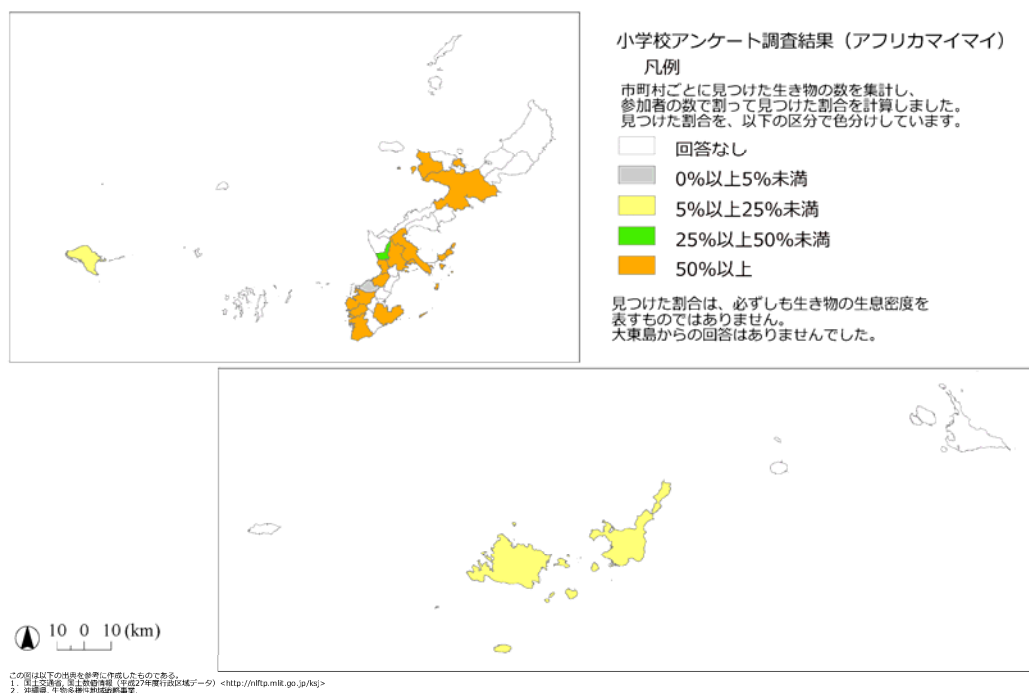
【ハラビロカマキリ】

全体の確認率は 37.5%でした。回答のあった地域のうち多くの場所で、確認率が 25%以上でした。



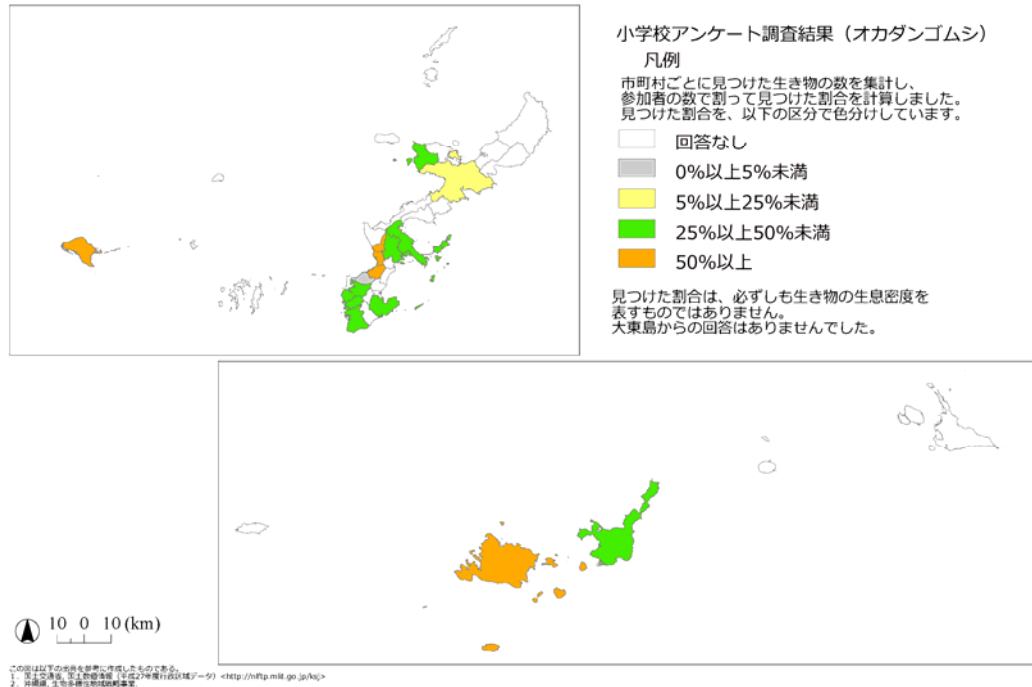
【アフリカマイマイ】

全体の確認率は 77.9%で、今回のアンケート調査の生き物の中で確認率が最も高かったです。沖縄県では、ほとんど 50%以上の確認率でした。



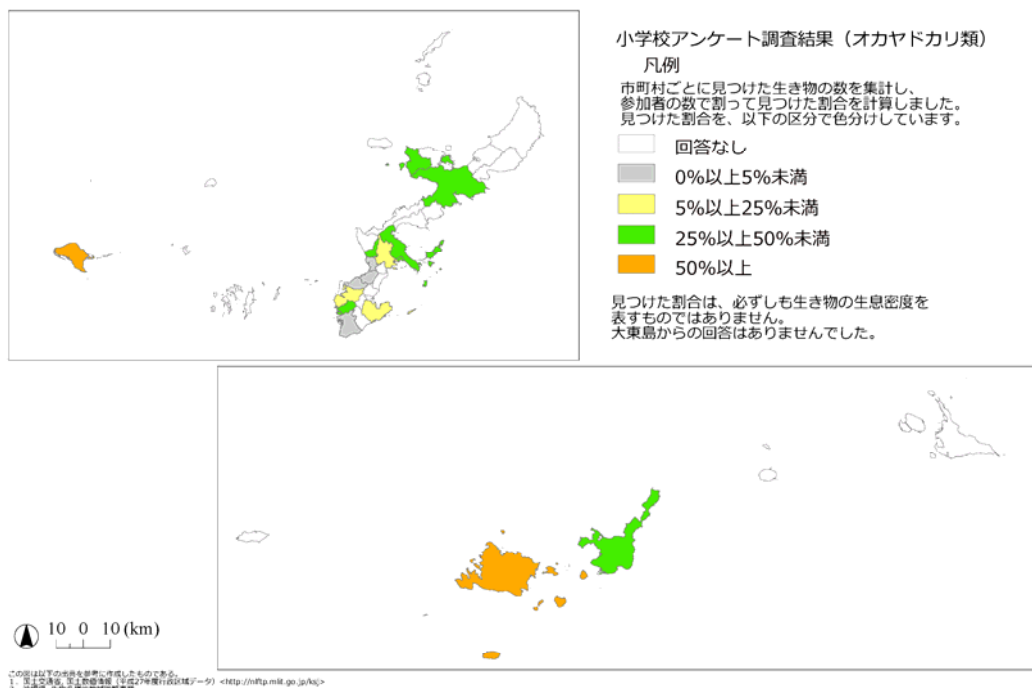
【オカダンゴムシ】

全体の確認率は40.0%でした。沖縄島南部や久米島、石垣島、西表島で確認率が25%以上と高い傾向でした。オカダンゴムシは他のダンゴムシやタマヤスデなど間違えやすい種が本種と間違えて回答されている可能性もあるため注意が必要です。



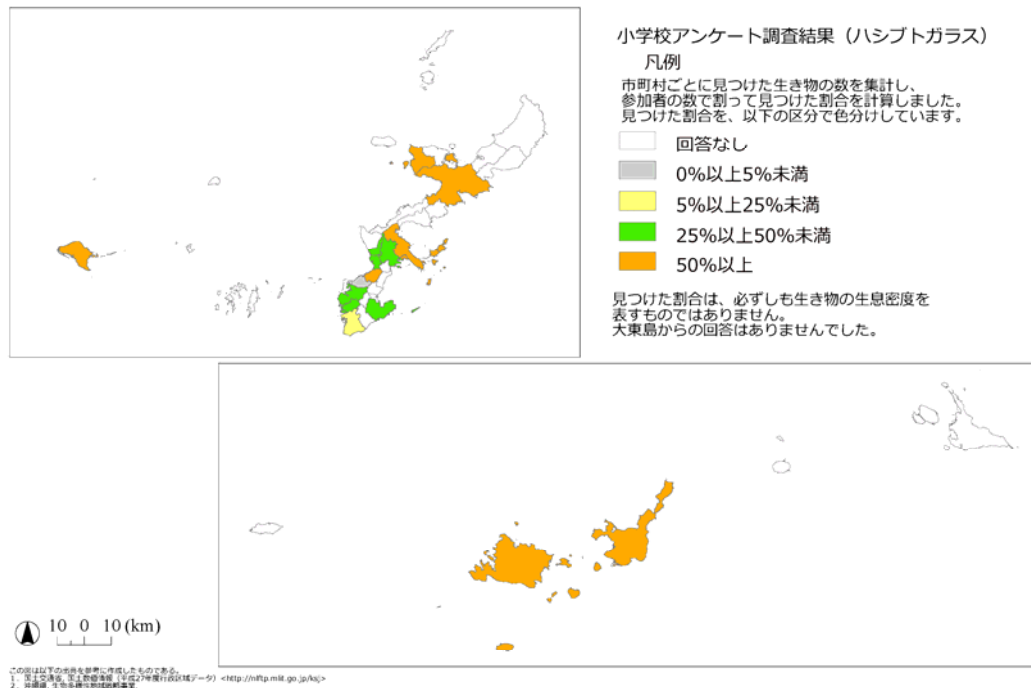
【オカヤドカリ類】

全体の確認率は14.8%でした。確認率は今回のアンケート調査の生き物の中で最も低かったアオミオカタニシとほとんど同じでした。沖縄県では自然海岸に行けば普通に見られる種なので、確認は容易ですが、小学校の校区内に海岸線がなかったり、自然海岸へ行く機会が減っているため、確認率が低かったのかもしれない。



【ハシブトガラス】

全体の確認率は 35.5%であった。回答のあった地域のうち多くの場所で、確認率が 25%以上で、森林環境が豊富にある場所での確認率が高い傾向にありました。本種の本来の生息場所は森林環境なので、おおむね本種の生息環境が反映された結果となっています。



【クビワオオコウモリ】

全体の確認率は 34.0%でした。

